

H23年度 中学部 生活単元学習（2年） 単元計画表

単元名 「災害に備えよう～自分の身を守るためにできることは～」

単元について

この単元は、地震や津波など、災害が起きたときに、自分で自分の身を守るためにできることは何か、非常用持ち出し袋（防災リュック）や非常食、AED などを使って調べたり体験したりしようというものである。

東日本大震災の際、地震や停電を経験した生徒達にとっても、「災害の備え」や「防災」は、以前より関心は高くなっている。災害に備えて、自分の身を少しでも自分で守るためにできることは何か、みんなで考えていきたい。

まずは「非常用持ち出し袋」の中身を実際に見ながら、何が入っているのか、自分の家にある物はどれかなど、生徒達の経験を聞きながら実際に使ってみて、防災グッズへの理解を深めていきたい。持ち出し袋には非常用の食品は入っていないことが多いので、近隣のスーパーに行き、非常用の食品とはどんな物か、みんなで確認しながら購入し、実際に試食や調理を体験してみる。また、災害時や避難途中などにけがをした時、何をしたらよいか考えたり、救急箱の中身を確認したりしたい。養護教諭から話を聞く機会を設け、簡単な傷の手当ての仕方などを教えていただければと考えている。AED についても大まかに知り、学校内の AED の置き場所を確認したい。また、消防署から訓練用の機器を借り、実際に使い方の体験をしてみようと考えている。また、ミニ非常用持ち出し袋や中に入れる呼び子笛を作成し、毎日の登下校時に持ち運びすることで、防災について、少しでも日頃から意識できるようになるのではないかと考える。

自分たちの周りにある「防災」や「救急」に関することを知ることで、防災や救急への関心が広がり、緊急時に、少しでも自分の身を守ろうとする意識が芽生えてほしいと願っている。

単元の目標・身近な「防災」や「救急」に関することを知り、災害への備えに関心をもつことができる。

計画を立てるにあたって

意欲的に取り組める状況作り

- ・興味をもって取り組めるように、非常用持ち出し袋や非常食、AED など、日頃あまり使ったことのないような実際の防災グッズや救急グッズを使って学習する。
- ・地域とのつながりを意識できるように、消防署やスーパーなど、身近な施設に校外学習に行くようにする。

個々に応じた題材や教材、教具の工夫

- ・非常食の購入では、好みの物や気になった物を自分で選んで購入できるように、いろいろな種類の非常食を見て回るようにする。
- ・ミニ非常用持ち出し袋や呼び子笛の作成では、一人一人の力を発揮できるように、個々に応じて取り組めるよう、作り方の工夫をする。

指導計画（総時数 14 時間）

時	月 日	がく 学	しゅう 習	ない 内	よう 容
1	10/3 (月)	ぼうさい なん ○～防 災 っ て 何 だ ろ う ? ～ じしん で えいが み だいしんさい はな ・地震の出てくる映画を見たり、大 震 災 でこまったことを話 し 合 っ た り す る。			
2	4 (火)	ひじょうよう だ ●非 常 用 もち出しぶくろ (10 こセット) のなかみは？			
3	5 (水)	れんらく ●きんきゅうのときのひなんや、連 絡 のしかたについて ひじょう ひじょうぐち でんわ ・非 常 かいだんや非 常 口 はどこ？ ・電 話 をかけてみよう くるま じてんしゃ ・車 いす、自 転 車 などに乗ってみよう			

4	6 (木)	ひじょうしょく ● 非常食について じっしゅう ★ちょうり実習① おゆを使って、ちょうりをする。
5	7 (金)	こうがいがくしゅう ★校外学習① [スーパーせんだう] (あるき) ひじょうしょく ・非常食になるようなたべものを買う。
	11 (火)	じっしゅう ★ちょうり実習② おゆを使って、ちょうりをする れんらく ●きんきゅう連絡カード作り
7	12 (水)	だ ●ミニもち出しぶくろ、きんきゅう用のふえ作り よう
8	13 (木)	ばこ ■きゅうきゅう箱のなかみや、かんたんな、きずの手当てについて。 てあ せんせい はなし き ・ほけんの先生からお話を聞きます。
9	14 (金)	
10	17 (月)	
11	18 (火)	こうがいがくしゅう ★校外学習② [カインズホーム] (あるき) じぶん だ ぼうさい か ・自分のミニもち出しぶくろに入れるもの（防災にかんするもの）を買う。
12	19 (水)	しゃ ●きゅうきゅう車やAEDについて こうがいがくしゅう ちゅうおう ★校外学習③ [中央しょうぼうしょ] (ろせんバス, あるき) ようごがっこういりぐちまえ 9:40 学校 (あるき) → 10:13 「養護学校入口前」はつ (ろせんバス) → し まえ 10:19 「市やくしょ前」ちゃく～あるきで、しょうぼうしょへ → ちゅうおう 10:30 中央しょうぼうしょちゃく けんがく ～しょうぼうしょ見学, AEDをかしていただく～ ちゅうおう 11:20 中央しょうぼうしょはつ → 11:37 「市やくしょ前」はつ (ろせんバス) ようごがっこういりぐちまえ →11:45 「養護学校入口前」ちゃく (あるき) → 12:15 学校ちゃく
13	20 (木)	つか かた ・AEDの使い方をたいけんする。 ぶつ ■けいじ物作り
14	24 (月)	〇まとめ がくぶしゅうかい 〇学部集会ではっぴょう

第1回地域との合同防災訓練（寄宿舎夜間避難訓練）

- ねらい
- ・つばさ会が主催をすることで自主防災の意識を高める。
 - ・地域交流をする中で、地域の方に寄宿舎について知っていただく。
 - ・防災に関する集会をする中で、防災への関心を高める。

日 時 平成23年9月26日（月） 18:30～19:20

場 所 寄宿舎ホール

参加者 寄宿舎生26名 職員8名 城西国際大学生3名 北之幸谷区ボランティア部会6名

内 容 司会進行：つばさ会（生徒4名）

時 間	内 容
18:30	ホールに朝の集いの隊形で集合
18:35 (5分)	開会式 進行：生徒 ① 始めの言葉 生徒 ② 校長先生の話
18:40 (10分)	消灯訓練 ① 事前指導 ・地震の音を流す ・音と共に電気が消える ・電気が消えた時に感じたことを覚えておく (感想、何が見えたか、全体や個人でどんなことができそうか) ② 消灯 BGMを流し寄宿舎の電気を消す ③ 消灯した状態の行動（教師は観察）1分程度 消灯後しばらくしたら職員がランタンをつける（じゅうたんの前後）。 ④ 電気をつけ、①での事柄について感想を聞く。
18:50 (15分)	大学生による防災ゲーム ① チーム分け（4チームに分かれる。地域のボランティア部会の方もチームに入ってゲームを行う） ② ゲームを行い、得点を競う。 ③ 得点により非常食の景品を配り後日試食をする。
19:05 (10分)	防災ビデオの鑑賞 「忍たま乱太郎の消防隊」 ※防災ゲームの様子により鑑賞しないこともある。
19:15 (5分)	閉会式 ① はじめの言葉 生徒 ② お礼の言葉 生徒 ③ 校長先生の話 ④ 終わりの言葉

第2回地域との合同防災訓練（第5回全校集会）

平成23年9月20日

児童・生徒会係

1 ねらい：東金市北之幸谷地区の長寿会、ボランティア部会の方々をお招きし、交流を図る。
防災について考える機会とする。

2 日 時：平成23年10月 4日（火）9：50～10：40

3 場 所：体育館

4 参加者：全校児童生徒 北之幸谷区長寿会16名・ボランティア部会3名

5 展 開 司会、号令：児童生徒会役員

時間	活動内容	全校への協力依頼	備考
9：40	○校内放送で集会の始まりのアナウンスをする。（児童生徒会役員）	・児童・生徒会役員は9：10までに体育館に集合し、準備を行う。	
9：50	○体育館に姉妹学級で集合する。 ・各姉妹学級をグループ名で呼び、出欠確認をする。（児童生徒会役員）	・東金市北之幸谷地区の長寿会、ボランティア部会の方々に体育館で待機いただき、一緒に参加していただきます。 ・名札（ガムテープ）を胸に付け、姉妹学級は妹学級を迎えに行き、一緒に体育館に集合してください。 ・役員が各姉妹学級のプラカードを持って立っていますので、それを目印に集合してください。 ・グループ名を呼びますので、大きな声で返事をお願いします。	パイプイス（21脚） プラカード 名札（ガムテープ）
9：55	○はじめの言葉（児童生徒会役員）	・復唱などをして始まりがわかりやすいようにしてください。	
9：57	○校長先生の話	・東金市北之幸谷地区の長寿会、ボランティア部会の方々の紹介も含んでお願いします。	
10：00	○東金市北之幸谷地区の長寿会、ボランティア部会の方々を各姉妹学級の代表者が迎えに行く。	・各姉妹学級の座る場所に写真カードを置いておきますので、その写真と同じ色の花やリボンを付けている方を、迎えに行き定位置に戻り、一緒に座ってください。	写真カード 花、リボン パイプイス
10：05	○姉妹学級ゲーム ・ゲーム説明（児童生徒会役員）		
10：10	・姉妹学級に分かれ、各グループ毎に指令されている特別教室へ行く。 ・校内放送で緊急放送（地震）が流れたら、安全な場所に避難する。 ・避難解除放送が流れたら、特別教室より、非常時持ち出しグッズを取って体育館に戻る。	・勝敗を競うゲームではなく、交流を図るためのゲームです。移動の際、ペアを作ったり、外部の方と話しをしたりして親睦を深めるようにしてください。（児童生徒会役員も姉妹学級に入ります。）	指令カード 非常時持ち出しグッズ

10:15	○校内放送で緊急放送（地震）が流れる ・近くの教室の机の下などに避難する	・安全な場所で待機ください。	
	○避難解除放送が流れる。 ・再度、活動（ゲーム）に戻る。 ・体育館に戻り、ステージ下の指示された箇所に持ってきた非常時持ち出しグッズを置く。	・指令場所にて非常時持ち出しグッズを取り次第、体育館に安全に気をつけてきてください。 ・グループによって体育館に戻ってくる時間に差が出ると思いますが、定位置にて姉妹学級で待機していただきます。 ・東金市北之幸谷地区の長寿会、ボランティア部会の方々には、体育館に戻り次第、集会の初めと同様のステージ下にあるイスに座っていただきます。	
10:23	○非常食を食べる。 ・食べている間、児童生徒会役員の質問に答える。	・水分の必要な児童・生徒は用意をお願いします。 ・緊急放送が流れた際、<u>どこにいたのか、どのように避難をしたかなど</u>、質問しますので、挙手をお願いします。（全グループから話しを聞きたいと思いますので、よろしくお願いします。）	非常食（水分）
10:33	○東金市北之幸谷地区の長寿会、ボランティア部会の方から感想を聞く。	・東金市北之幸谷地区の長寿会、ボランティア部会の各代表の方から感想をお聞きします。	
10:35	○東金市北之幸谷地区の長寿会、ボランティア部会の方々の退場。	・校長先生の先導で退場していただきます。拍手をお願いします。	
10:37	○次回予告（児童生徒会役員） ・次回は、10月13日（火）に「やまもも集会」を行うことを知る。	・次回の集会の日時やテーマを復唱などをして知らせてください。	
10:39	○終わりの言葉（児童生徒会役員）	・姉妹学級で解散となります。姉学級は妹学級を教室まで送ってください。	

5 その他

- ・事前の準備や後片付けは、9月26日（月）～10月4日（火）の昼休み（12:40～13:10）に小会議室や体育館にて行う。

1 題材名 防災パーテーションを作ろう ～災害時に適したデザインを考える～

2 題材について

防災教育チャレンジプランの取り組みとして、パーテーションを作ることになり、美術の授業でそのデザインを決め、制作をすることにした。選択教科は、高等部全員を縦割りで4教科に分けて編成している。美術の生徒は、アイディアを出して、絵や言葉で表現できる生徒、教師の支援を受けアイディアを出し色を塗ることができる生徒、教師と一緒に好きなデザインを選んで、色を塗ることができる生徒など、実態は様々である。

パーテーション作りでは、災害時の避難生活を想像し、災害時に適したデザインを考えていく。また、イメージプロフィールから分かった理想のパーテーションのデザインや色合いを基に、いくつかのデザインの中から理想に近いデザインを選び着採していくことにする。

パーテーションを作ること、地震の体験や震災後のニュースなどを思い出し、いつ自分たちの身近におこるか分からない災害に備えたり、防災の意識を高めたりするきっかけにしたい。また、色や形が人に与えるイメージがあり、それを基にデザインを考えることで人の心に変化を与えることができることを知ってほしい。

3 題材の目標

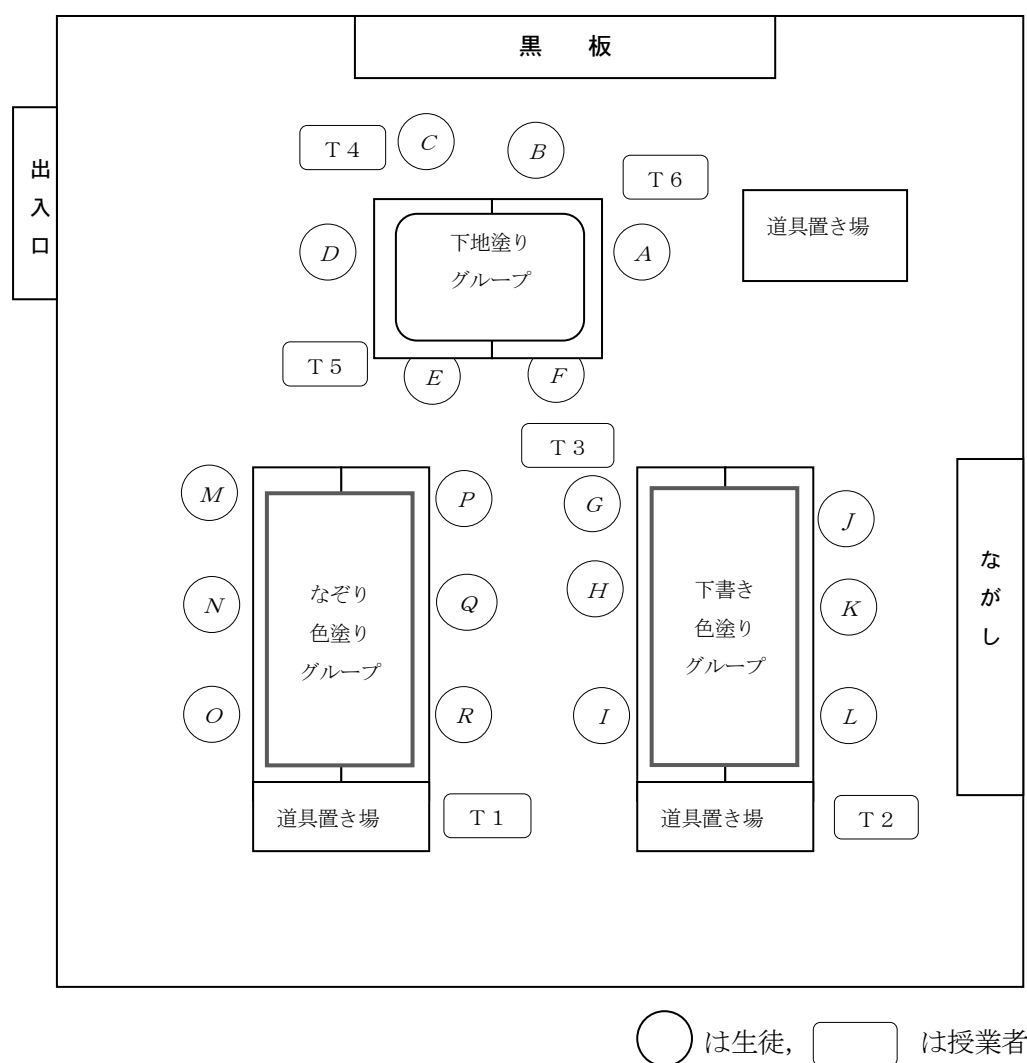
- ・災害時をイメージし、パーテーションの図案のアイディアを出すことができる。
- ・良いアイディアを選んだり、色から受けるイメージを答えたりすることができる。
- ・パーテーションに絵の具で色を塗ることができる。

4 展開

時配 (分)	学習内容と活動	指導・支援上の留意点 教師の役割、手だて	評価	備考 教材・教具
3	・本時の学習内容を確認する。	・実物を見ながら説明するようにする。	・活動の内容が分かったか (知識)	
30	・3つのグループに分かれて、制作する。 【下地塗りグループ】 (A, B, C, D, E, Fさん) ・板の全面に色を塗る。 【下書き、色塗りグループ】 (G, H, I, J, K, Lさん) ・パーテーションに、デザイン画を基に色を塗る。 【なぞり、色塗りグループ】 (M, N, O, P, Q, Rさん) ・パーテーションに、指定された色を塗る。	・塗りやすいように、生徒一人一人に合った道具を用意する。 ・塗が残しがないように、重ねて塗るよう言葉をかける。(T4, T5, T6) ・色を間違えないように、デザイン画とパーテーションに番号を振っておくようにする。 ・塗る色を分担するように言葉をかける。(T2, T3) ・はみ出さないように、ていねいに塗るよう言葉をかける。 ・はみ出してもいいようにマスキングをしておく。	・道具を使って色を塗ることができたか。(技能、表現、意欲) ・デザイン画を見て正しい色を塗ることができたか。(技能、表現、意欲) ・はみ出さないように塗ることができたか。 ・塗が残しなく、仕上がりがきれいになるように塗るこ	板 (パーテーション) 絵の具 ローラー エッジャー シート プラダン板 (パーテーション) マジック 下書きシート アクリル絵の筆 刷毛

		色の名前と番号を振っておき、自分で塗る色を確認できるようにする。(T 1)	- とができたか。 - 正しい色を選ぶことができたか。(技能, 表現, 意欲)	マスキングテー
5	片付けをする。	分担して片づけをするよう言葉をかける。	協力して片付けができたか(関心意欲)	
2	- 本時の成果をグループごとに発表する。 - 次時の学習内容について知る。	発表する生徒を決めておくよう言葉をかける。	発表ができたか(知識, 意欲)	

5 配置図



1 題材名 災害時の「ほうれんそう」～緊急時のコミュニケーション～

2 題材について

3. 11の東日本大震災の時、部活動参加生徒たちは、部活動中、下校途中、寄宿舎の活動中と様々な状態であった。学校付近にいた生徒たちは一旦体育館に避難したが、大きな余震があり、グラウンドへ避難。震えながら涙を流す生徒もいた。数日後、余震の影響で電車が止まり、駅で足止めになった生徒たちを、スクールバスで迎えに行くということもあった。本校の部活動参加生徒は、1学年4名、2学年14名、3学年13名の計31名で、全て自主通学である。

震災時を思い出しながらブレーンストーミングをしたり、具体的な場面設定でロールプレイングをしたりすることで、緊急時に自分で自分の身を守るための方法や、必要となるコミュニケーションについて学んでほしい。事前学習として釜石東中学校の生徒による体験発表のビデオを鑑賞しておく。

3 題材の目標

- ・自分の身を守るために必要なことを考えることができる。
- ・自分の言葉や表現で、意見を発表することができる。
- ・他者の気持ちを知ることができる。

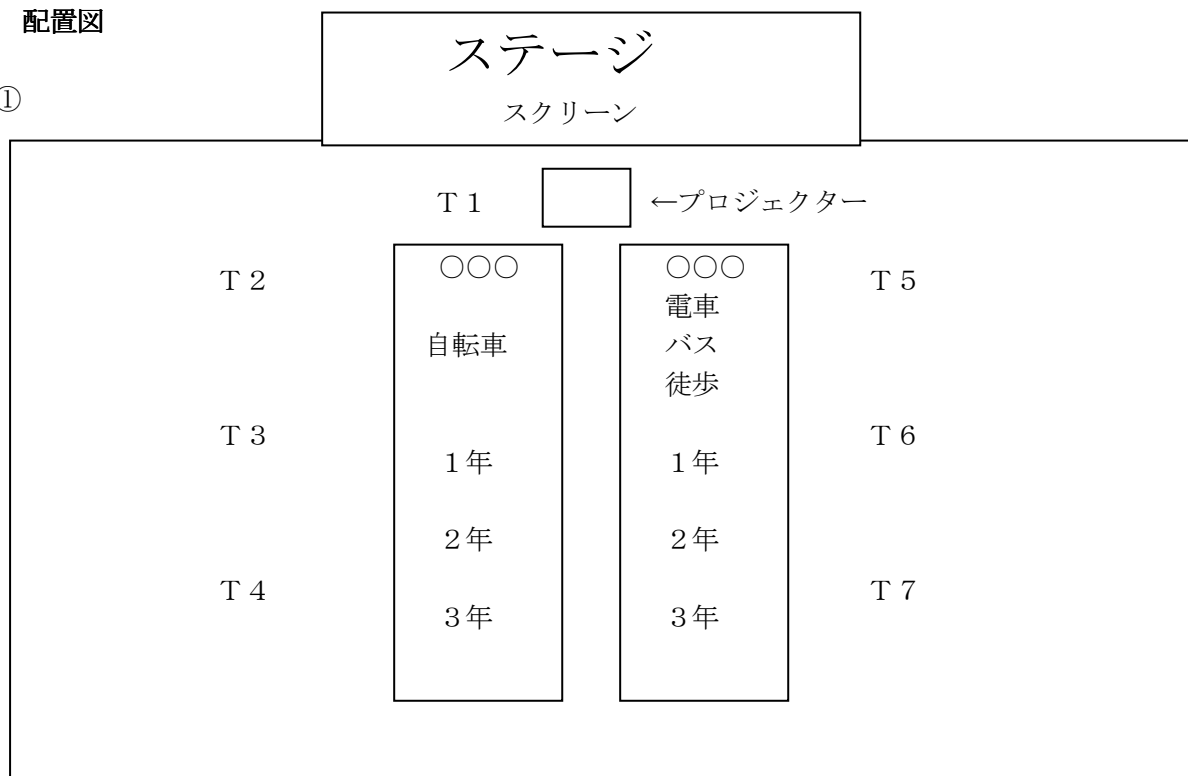
4 展開

時配	学習内容と活動	指導・支援上の留意点 教師の役割、手立て	評価	備考 教材・教具
5	配置図① ・本時の学習内容について知る。	・映像等を用いて分かりやすく伝える。	・学習する内容がわかったか(知識)	プロジェクター スクリーン マイク PC
15	配置図② ・5名ずつ6グループに分かれる。 ・自由な発言やアイデアを発表する。 設定「朝の通学中」「家で就寝中」「家で入浴中」に地震が起きたら I 自分でどうする? 次に… II 誰に、どうやって助けを求める? ・代表者が発表する	・話がしやすいように、同じ通学方法の生徒で集まるようにする。 ・発表内容を紙に大きく書くようにする。 ・発表係、紙を持つ係を決めるようにする。	・自分で考え意見が言えたか(知識) ・他者の意見を聞いたか、進んで取り組めたか(関心意欲)	紙 マジック
15	・役割演技をする。 設定I 地震が起きて逃げる 「耳の遠い老人」「孫」 設定II 下校途中に見つけた 「倒れている人」 「通りすがりの人」 ・代表者二名が発表する。	・役割の希望を聞く。 ・名札をつけて行う。 ・それぞれについて感想を聞く(グループ毎)。 ・代表者を決めておく。	・役割がわかったか(知識) ・進んで取り組めたか(関心意欲)	役割がわかる名札
5	配置図① ・感想を聞く。 ・教師のまとめを聞く。	・特に意欲的に取り組んだ生徒や、普段発表する機会が少ない生徒を選ぶ。	・感想が言えたか(知識、意欲)	

※今まで教わっていないことに遭遇した時（竜巻やゲリラ雷雨）、既成概念にとらわれなくて行動しなければならない時（横断歩道青なら渡ってOKか）、事例を交えて、まとめの場面で話をする。

5 配置図

①



②

